２０００年２月１５日発行　（隔月号）

う羽化か

2000年2月
第18号

横浜漢点字羽化の会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105　Tel 045-641-1290
発行責任者　代表　岡田 健嗣

目 次

漢点字変換ソフトEIBRKについて（2）（木下和久）..... i（中央）
字・名・文からみえること　（伊藤 邦博）..... 1
点字毎日より転載
　論壇　表意点字の進路　（田中邦夫）..... 6
点字の読みづらさと漢点字の触読について（6）
（岡田 健嗣）..... 8
訃 報 12
イラスト版「漢点字ってどんな字？」（17）..... 14
連載「点字から識字までの距離」（17）（山内　薫）..... 20
「EIBRDIC」の配布が始まりました 26

字・名・文からみえること

― 字統、字通から ―

小学校教師　伊藤　邦博

すべてのものは、名をもつことによってはじめて具体的な存在となる。存在の世界を存在の世界として秩序あらしめるものは、ことばの体系の成立であったということができるし、同時に文字の体系の成立であったともいえよう。古代のオリエントの神学では、名を定めるのは神のことばであるとされるが、そのような唯一神をもたなかった中国の古代では、名を定めるのは聖人であり、家の子の名を定めるのは祖霊であった。加入儀礼を行う年齢によって、まず字（あざな）が与えられ、ついで名がつけられるのである。名がつけられることによって人格権が確立する。

（白川　静「漢字百話」）

いささか難解な内容ですが、何回も読むと意味するところがわかってきます。

前々号で私は文字という字はどのようにして生み出されてきたのかという疑問から出発して、白川さんの字統に基づき「文」の原義（古代中国で漢字が生み出される時の背景と最初の意味）は分身（刺青）であり、出生、成人、死喪の際の通過儀礼を示す文字であることを述べました。今まで、「文」はセンテンス、文様、手紙の意味くらいに考えていて何も疑問をもつことなく過ごしてきましたので、びっくりすると同時に漢字の原義を知ることの面白さを見つけました。

今回は「字」と「名」について調べたことを書きますが、この文字の初義にも驚かされました。

「字」の初義はなんでしょうか。白川さんは次のように説明しています。（表1）

古代中国では「字」という文字の最初の意味するところは、幼名であり、名は青年に達して氏族の一員として承認されたときに与えられるものを

表1

字 会意文字 宀＋子 古代文字は 	屋根の垂れている家は、先祖のみたまやである。その下に子が描かれているのは生まれた子が氏族員の子としてはじめてに謁見することであり、その生育の可否について祖霊に報告し、その承認を受ける儀礼を意味する。そのとき幼名が与えられるのを小字という。字はアザナである。そうして養育のことが決定される。ゆえに「字」にやしなうの意があるが、本義はあくまでアザナである。
名 会意文字 肉＋口 古代文字は 	上は祭肉、下は祖廟に告げる祝詞で、その器　をもって示す。養育して一定の年齢に達すると、氏族員としての名が与えられ、祖霊報告する。命名にも一定の規範があり、祖霊の承認を必要とするのである。その儀礼を示す映像的字形が名である。

さしたのです。どちらの文字も氏族社会への加入儀礼を表しています。

ここには現在の私たちが使っている字の意味を見出すことはできません。この初義から今私たちが使う文字となるにはどのような過程を経ていったのでしょうか。興味をそそられました。

その答えは白川さんの辞書三部作の『字通』のなかにありました。

『字通』は「漢字の体系的理解と、字義の展開のあとを考え、漢字文化の特質に触れること」を目的に編纂されたものです。私たちがよく使う漢和辞典と考えて差し支えないと思いますが、白川さんが生涯をかけてひとりで研究してきた白川文字学のすべてが網羅されています。親字を示し、一つ一つの親字の画数、字音、字訓、字形（象形会意　形声　指示　仮借転注と親字を分類し、字の原義とその後の展開を叙述している）、訓義（中国から伝わってきた漢字を日本語として使いこなす時に、漢字に与えてきた日本語読みと意味。それを一般的な展開の順序に従って叙述している）、古訓、声系、語系、そして親字に関する用語とその意味を示しています。掲出されている親字は九千五百文字、二千百ページの大変な労作です。「字」、「名」、「文」についてあらためて字通で調べ直してみました。

この三文字の字音（音読み）と字訓（訓読み）、

訓義とその順序、古訓（初期訓義わが国の古辞書に載っている訓義、訓読みは多くの場合日本語としての意味を示しています。）について書き出してみました。（表2）

この表をつくってみて、私は三つのことを考えました。

第一は字訓、古訓、訓義の多さです。字訓として『字』に三つ、『名』に四つ、『文』に四つ、古訓にいたってはそれぞれの漢字に四つ、五つ、九つの読みを与えています。訓義にはそれぞれ四つ　五つ、三つをあたえています。私たちの祖先が豊かな言語生活をおくっていたことがわかります。

第二は漢字を国語化して使用していく時に、私たちの祖先が意味論的に見事に体系づけて使いこなしてきたということです。

『字』という漢字が、子どもの出生を祖霊に報告し、祖霊から育ててよいという許可をもらうと、小字を与えられ、つまり名づけられ、慈しみながら養われ、育てられ、やがて一定の年齢に達すると、名を与えられるという古代中国の字源を踏襲しつつ、日本の当時の文化や習俗に照らし合わせ

表2

漢字	字音	字訓	古訓	訓義
字	ジ	やしなう あざな もじ	ナ、 アザナ ヤシナフ イツク シム	1、やしなう　廟見の礼によって養育のことが定まる。 2、あざな　廟見の際に　あざなをつける 3、はらむ 4、慈と通じ、いつくしむ 5、あざなをつけることから、文字の意となる。文は分身でやはり、もと通過儀礼の一である。
名	メイ	な なだかい ほまれ もじ	ナ ナザシ カナハラ ナヅク フフム	1、な、なづける、なをいう。 2、ものの名　よびかた　実に対する名　表現、名文 3、名が知られる、なだかい　ほまれ　てがら 4、しるす 5、目の上　眉と目の間
文	ブン モン	あや もよう かざり ふみ	ヒカリ カザル モトロク モトロカス フミ アヤ オゴク マダラ ウルワシ	1、分身　通過儀礼として、体に文様を施す 2、あや、まだら、もよう、いろどり、かざり 3、あらわれ、すじ、みち 4、もじ、ふみ、ことば 5、みやびやか　文徳 6、学問、技芸 7、つとめる 8、みだれる

ながら巧みに日本語化させて、意味を付け加えていったことがわかってきます。

『名』についても、名、名づけるからやの名まえや呼び方から名文・表現というように記述の意味をも持たせ、名高い、ほまれ、名をあげるというように名誉に関することまでこの文字に意味をもたせていく拡張の方法も手にとるようにわかります。

『文』についても分身から模様、装飾、あらわれ(呪能に関することでしょうか。) 文字、ふみ(手紙)、ことば、雅、学問、技術と意味や概念を広げていく過程の巧みさには驚かされます。私たちの祖先はなんと見事に漢字を日本語化させていったことでしょう。

第三は、ことばが生き生きと呼吸していることです。声に出し読んでみるとことばが飛び跳ねていることがわかります。私たちの祖先は何とも細やかにことばを使いこなしていました。

ところで常用漢字ではどうなっているでしょうか。最近では出色と評判の三省堂発行の新明解国語辞典第四版ではこの三字は次のように扱われています。もちろん読みは常用漢字表に従っています。(表3)

表3

漢字	字音	字訓	字義
字	ジ	あざな	1、文字 2、筆跡
名	メイ ショウ	な	1、名まえ 2、すぐれた 3、名高い 有名な 4、人数を唱えること
文	ブン モン	ふみ	1、もじ 書体 2、書物

この三つの漢字だけからでも、私たちが今使っている漢字の字義は、本来もっている意味のほんの一部でしかないことがわかります。ここからは漢字のもつ原義を窺い知ることはできませんし、私たちの祖先が漢字を日本語として使いこなしていく努力もプロセスはまったくわかりません。そんなものは必要なしときれいさっぱり捨て去った

というほうが適当かもしれません。現代は狭い意味での機能としてあるいは手段としての観点からしか漢字が扱われていません。終戦後出された内閣告示の当用漢字表と受験体制がそれに拍車をかけたのも事実でしょう。自由な社会になったと言われる戦後に漢字の棄民政策が始まったのはなんとも皮肉です。

日本人が漢字を使い始めてから２０００年の時間が経っていることを考えれば、漢字の原義や訓義の多くが失われていくことまた必然かもしれませんが、それらをすべて捨て、見向きもしないことは何とも愚かなことです。経済だけでなく、言語までアメリカに追随して日本語を捨てて英語を公用語にすべきだなどと乱暴なことを言う政治家まで登場してきた時代です。

自分たちの母国語の源を知ことは絶対必要なことです。

ここまで考えてみると冒頭の白川さんの指摘がすごい説得力をもって迫ってきます。

すべてのものは、名をもつことによってはじめて具体的な存在となる。存在の世界を存在の世界として秩序あらしめるものは、ことばの体系の成立であったということができるし、同時に文字の体系の成立であったともいえよう。

私たちは母国語を見つめ直す時期に来ているのではないでしょうか。

漢字を日本に取り入れ、音訓あわせて用いる方法によって完全に国語表記の方法としたことや、他の民族の他の語系に属する文字を、自国の表記の方法にしたことを私たちは誇りを持って、再度見つめなおす必要があると思います。

現代とは比較にならないくらい物質的にも貧しく、物の怪におびえ、いつも死と隣り合わせで生活していた日本の古代ですが、当時の人々は精神世界や言語生活では私たちよりも豊かであったと私には思えてなりません。

◇◇◇◇◇

以下の記事は、点字毎日電子版、二〇〇〇年一月二七日号に掲載されたものです。毎日新聞社のご厚意により転載させていただきます。
「点字の漢字」への新たなご見識を示されたご意見です。

［論壇］表意点字の進路

東京都　田中邦夫

漢点字と6点漢字を総称して「点字の漢字」というようだが、いささか間延びした表現である。私はこれを仮名の「表音点字」に対して「表意点字」と呼びたい。

2種類の表意点字が公表されて4半世紀たつが、いまだに試案のままだ。公認に向けてしかるべき機関が公平な立場でどちらか一つにしぼり込めとの意見もあるが、表意点字は文化的業績であり、制度や法律を採択するようなやり方にはなじまない。石川式点字の採用経過を挙げる人もいるが、仮名の50音を決めるのとはわけが違う。

さて、表意点字の進路について、私は「しぼること」よりまず「並行して普及されること」にエネルギーを注ぐべきだと言いたい。日本の文字である以上、点字が仮名だけでいいはずはないし、この点にはまず異論もあるまい。となれば、何も択一の作業を急ぐ必要は見当たらない。世界には複数の公用語や公用文字を持つ国は幾つもある。長い歴史の中のある時期に、2種類の表意点字が存在したとしても不思議ではない。混乱を危惧する向きもあろうが、コンピューターによって相互の変換も可能になるかもしれない。教育現場でもとりあえずは学校裁量で選択すればいい。大学入試なども希望する方式で受けることが可能である。要は一人でも多くの盲人が一日も早く漢字の恩恵を享受できることにある。漢字体系としての優劣は、将来彼らが決めてくれるはずだ。

表意点字は個人の業績なので普及のための十分な資金はない。それだけに強力な支援体制が必要になる。文部省や特殊教育研究所、日本点字委員会や盲学校の教育研究組織などにそれを期待した

い。「何をおいても一つを」と考えるから腰が引けてタブー視したり、波風を恐れて遠巻きにしたりしなければならなくなる。「並行普及」と腹をくくれば、これらのしがらみから解放される。

かつてのオプタコンの普及ぶりが思い起こされる。オプタコン委員会が組織され、文部省も特総研も積極的にかかわった。盛んに講習会を開催して、「オプタコンティーチャー」なる認定まであった。今、表意点字について、ぜひこれを見習ってほしいと願うのである。表意点字は盲人文化の明日を開く。

漢点字の公認へ向けて

昨年八月から、漢点字の公認へ向けての運動の一環として、署名活動が繰り広げられました。本会も、鳥取県の野島静先生の呼びかけにお応えして、幅広く署名の蒐集を行ないました。その結果、当初の予想をはるかに越える数の署名を頂戴致しました。心より御礼申し上げます。ご署名下さいました皆様、そして精力的に署名を集めて下さいました皆様には、よりよいご報告ができますよう、熟慮を重ねて運動を遂行する所存でございます。

現在は、全国から集められた署名要旨を、鳥取県の皆様が集計して下さっておられます。また、漢点字を使用しております視覚障害者に、漢点字を身に付けての感想文を寄せていただき、それを一冊にまとめる作業を行っておられます。

次号では、再度野島先生に、漢点字公認運動の展望についてご執筆いただく予定です。

この春を目処に、文部省への請願に一歩を踏み出します。本誌読者の皆様の、さらなるご支援をいただきたく、お願い申しあげます。

点字の読みづらさと漢点字の触読について（六）

横浜漢点字羽化の会代表　岡田　健嗣

三　点字の触読について

隠された点字、四点点字と三点点字（承前）

前二回にわたって、点字の構成である六つの点の中に、四つの点の点字と三つの点の点字が包含されていることを見てきました。前回ではその内の四つの点の点字の在り方を考えました。

本稿は、点字の触読がどのようになされているかを考察して、視覚障害者にとっての〈文字〉がどのようなもので、どのように位置付けられるかについて提出したいと起稿したものです。視覚障害者が大きく点字から離れている現状を考えますと、その理由を突き止めて、なお〈文字〉としての点字を再生させたいと願わずにおられないからです。確かに本稿は〈漢点字〉を眼目に起こしたものです。しかしながら現状はそれよりなお、〈点字の触読〉そのものが地盤沈下しているように思われます。そこで先ずは点字の触読について考え、視覚障害者の読書が、如何なる方法で行なわれるべきか考えてみたいと思います。

視覚障害者がその文字である点字を手にしてから、我が国ではほんの百年を経たばかりです。このような短期間の内に、早くも「点字離れ」が言われ、さらに「点字不要論」まで行き交っているのが現状です。触読のための点字が忌まれて、音声訳の広まりやコンピュータの普及でものを読むことは可能だとするのが、その主張の要旨です。このような、現実に点字を使用する視覚障害者が減少して、あまつさえ点字を教えられる初等教育者が消失しつつある現状を、そのまま追認するこのような主張を是とすることがよいものか、私には疑問に思われます。私が受けたころの盲学校の初等教育では、何としても点字だけは読めるようにしたいという先生方の熱意を、生徒である私たちもひしひしと感じておりました。当時は、点字（仮名体系）しか、読書の方法がなかったからそのようであったというばかりではありません。恐らく先生方が、人間にとって〈読む〉ことは、食事や睡眠に勝るとも劣らないほどに必須の事項で

あることを、ご自身よくご存知であったからに違いありません。そうでなければあのような熱意が発揮されるとは到底思われません。そのような古きを思いながら現在の盲学校の情況を聞く時、必ず言われることが、中途失明者と重複障害児の増加、そして点字の触読能力の低下が挙げられます。加えて音声訳とコンピュータの普及とその使用が推奨されます。今では〈点字〉の触読の能力は、特殊なものと位置付けられるに至っています。

しかし、どれだけメディアが進んでも、音声訳は〈文字〉ではありませんし、コンピュータも、結局は音声化するか、仮名点字で表現するかするしかありません。〈文字〉の世界は〈文字〉で表わされることなしには、究極には〈読む〉ことに繋がらないことは言を待ちません。

これまで、点字を触読するということは、点字の点の数や位置を認知することによって行なわれているのではなく、指先に触れると同時に〈分かる〉ことで行なわれることを述べて来ました。その方法として先ず、六つの点のポジ（マスの中の点のあるところ）と、ネガ（点のないところ）で対をなすことで、六四とおりの組み合わせ（フリーを含む）を半減させることができるのではないか。さらに、点と点を仮想の線で結ぶことで、点字を点の集合ではなく、フォルムとしてとらえているのではないかと考えて来ました。そしてさらに、四点点字の存在を取り出し、それが独立の点字体系であることを示しました。

この四点点字の特徴は、六点点字に包含されているとき、二つの姿を見せます。一つは「upper4」、六つの点の上の四つがそれに当たります。もう一つは「lower4」、下四つの点が用いられます。

触読では、この lower4 であるか、それ以外の符号であるかが先ず読み取られます。lower4 は、点字の体系の中では句読点や括弧など、文章中、文字ではないが文字と同程度に重要な働きをする記号に充てられています。つまり lower4 を判別することは、文字ではないが文章の要素として重要な記号を判別することを意味します。lower4 を読み取ることができれば、その文章の大まかな傾向を読み取ったことにさえなるのです。

upper4 は、六点の点字の中の下の二つの点が欠けた形をしています。upper4 の下に点を付けることで、六点点字が完成することになります。すな

わち、upper4は、四点点字の体系を保持しながら、六点点字の祖型をも担っているのです。

表三の「三点点字」は、六つの点を縦二列に分け、その右側だけを取ったものです。左側は文字か lower4 の符号です。そこでここではこの三点点字を"right side 3 dots braille"の意で、right3と呼ぶことにします。right3は、「⠸、⠨、⠠、⠈、⠐、⠂」の点符号です。ご覧のようにマスの左側には点符号はありません。文字としては不完全な形に見えますが、しかしこの right3 は、点字の大きな特徴である「前置符号」を担う重要な点符号なのです。

「前置符号」とは、ある点字符号の前に別の点を付けることで、その点字符号の意味を広げるものです。例えば日本語の点字（仮名点字）では、濁（半濁）音「⠸⠅ガ、⠸⠈ギ、⠸⠐グ、⠸⠠ゲ、⠸⠂ゴ」拗（濁・半濁）音「⠸⠅⠡キャ、⠸⠈⠣キュ、⠸⠐⠥キョ、⠸⠅⠡⠅ギャ、⠸⠈⠣⠈ギュ、⠸⠐⠥⠐ギョ、⠸⠅⠡⠅⠡⠅ぎゃ、⠸⠅⠡⠅⠡⠅ピャ」のように、多く濁音や拗音を表わすのに用いられます。ひらがなやカタカナでは、濁点や半濁点は文字の右肩に付すのですが、点字ではこのように「⠸⠅（五の点）、⠸⠅（六の点）」の符号を「前置符号」として点字符号の前に付けます。試しにこれを後置しても、全く読むに堪えないのです。

拗音の点字表記は、明治三十三（一九〇〇）年に右のように制定されました。この表記法は、日本語の音声の表記としては極めてユニークなものです。と申しますのは、歴史的仮名遣い（音声を再現しようとする仮名表記）の、例えば「きやう、きよう、けう、けふ」と表記される「キョウ」という音を、「⠡⠥⠡⠥」の点字符号で表わします。この点字符号は、「コ」に「⠡⠥」を前置して、さらに長音に「ウ」でなく「ー」を用いたものです。すなわち、「キャ、キュ、キョ」という音を点字では「キ」を基音として表記するのではなく、「カ、ク、コ」の点字それぞれに「⠡（四の点）」を前置することで表わすのです。日本語点字の考案者である石川倉次は、点字の構成をローマ字の母音と子音との組み合わせを参考に組立てました。この拗音も「kya, kyu, kyo」のように、ローマ字の「y」に当たる符号に「⠡」を用いて、しかもそれを前置したように見えます。が、それはロー

マ字の構造からは、外れた解釈に思われます。とは言えこのようにして点字の読み易さが摸索されたのでした。そうする内に、点字の表記が、一般の日本語の表記法から少しずつ隔てられる結果となりました。現在の視覚障害者の中に、拗音の表記に迷いを持つ者が少なからず存在しているのはそのためです。しかし、このように前置符号を使用する方法が、日本語の点字を、確かに読み易いものにしました。今言えることは、このような表記法を採ったことの功罪を言うのではなく、止むなく捨て去った方法にも、もう一度光を当ててみるのも無駄ではないのではなかろうかと言うことです。

さて、この right3 を前置符号とする方法は、石川が欧米の点字から学んだものと思われます。欧米の点字には、アルファベットで表記するだけでなく、アルファベットの組み合わせを一つの点字符号に充てて単語や文字列を表現する「略字」があります。これはフルスペリングで書かれた文章に比べて、その嵩を三分の２程度にまで抑えることができるとともに、文章の読み易さも格段に向上させました。

【表三】　四点点字と三点点字

UPPER SIDE 4 DOTS BRAILLE

1.　1a　2b　3c　4d　5e　6f　7g　8h　9i　10j

LOWER SIDE 4 DOTS BRAILLE

5.　41　42　43　44　45　46　47　48　49　50

6.　55　56

RIGHT SIDE 3 DOTS BRAILLE

7.　57　58　59　60　61　62　63

LEFT SIDE 3 DOTS

英語の略字の中にも前置符号が多用されています。その例を幾つか挙げてみましょう。

「⠐⠕ ought」「⠐⠥ under」
「⠐⠎ some」「⠐⠞ time」
「⠐⠎⠍ sometimes」

このように見て参りますと、この right3 は三点点字というよりも、必ず後ろの点字符号と一緒になって現れるので、独立した点字体系ではなく、二マスが一つの単位となった点字を表わしているものと考えられます。

点字を触読する時その指は、左上（一の点）から右上の点（四の点）、ついでその下に触れて行きます。その順は、「lower4」、「right3」、「upper4」と分別し、最後に六点点字に至ります。lower4 は文中の記号類を、right3 は次のマスの点字符号へ、upper4 は十個の独立した四点点字を見分けます。指で触れて判別する工程は、これによって大幅に縮小され、点字が文字どおり文字として読み得るのだと考えられるのです。

このことは後に触れるように、漢点字の構造にも巧みに生かされています。

（以下次号）

訃報

横浜市中央図書館で障害者サービスを担当しておられました大橋安代さんが、昨年一九九九年十二月十七日、胃癌のためにお亡くなりになりました。

大橋さんは、横浜市立図書館（港北図書館並びに中央図書館）において、長年障害者を対象としたサービスを担当して来られました。市立図書館の視覚障害者向けのサービスは、主に音訳のプライベート・サービスです。このサービスとは、まず利用者が図書館の蔵書から希望書を選択して、それを図書館に登録しておられる音訳ボランティアの方に依頼して音訳していただくものです。この利用者とボランティアの間に立って、希望書の選択のお手伝いや希望の内容を受けとめて、それをボランティアの方に伝えるというのが、大橋さんのお仕事でした。

このようなサービスは、一九八〇年代から各地で盛んとなりました。しかしその多くは、一人当たり

のニーズに制限が伴うもので、例えば一度に三冊というように、一人あたりの要望の量に制限がありました。その場合、一冊の本の音訳に三カ月かかるとしますと、最大限一カ月に一冊の読書が許されることになります。しかし、一カ月に一冊の読書しか許されないとしますと、読書欲にもえる利用者はどうしたらよいのでしょうか。

他の機関では、サービスの原則が厳しく守られて、ニーズの増大を抑える方向に向かっておりました。また、多様化するニーズにサービスが追いつけず、能力の不備を理由に断られるケースも増えてゆきました。そのような中、大橋さんはボランティアの質と量の拡充をはかるとともに、一人当たりのニーズの制限を、運用の面からバックアップして下さいました。そのような運用が、一人一人のニーズの充実とさらなる多様化をもたらし、またそれに応じてボランティア活動の活発かを促進することになりました。

このことは、本会にも無縁のことではありません。

大橋さんのお仕事が、漢点字に対するニーズの芽生えと成長につながって参りました。ニーズは自然と湧き出て来るものではありません。何が必要か、思考し煩悶して捻り出すものです。その力がなければ、何れネガティヴ・フィードバックをおこして消滅します。そのようにして誕生したニーズは、何としても育てなければなりません。大橋さんの間口を広く構えて下さったお仕事は、その意味で大変貴重な一歩を示されたものでした。

なおご夫君は視覚障害者で、長くＮＨＫの「盲人の時間」のキャスターをお務めでした。また、読書権保障の活動に全霊を賭けてもおられます。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

岡田

イラスト版

漢点字ってどんな字？ 17

続・仮名と漢字

お　もう一度、漢字の特徴と仮名の特徴を復習しましょうか。先ず働きの特徴からね。

未　仮名は読みは一つ、それにそれだけでは意味を持たない。

あ い う え お

ワ ヲ ン

志　そうか、カタカナもひらがなも、音だけなんだ！

未　カタカナは、日本語の音を表すのに、漢字の音を使うんだけど、主にその字の一部を使って表したのね。それに対してひらがなは、漢字そのものを使って表したんだけど、だんだん崩れて、もとの漢字から離れていったのよね。

宇	→	ウ	宇	→	う
女	→	メ	女	→	め
乃	→	ノ	乃	→	の
八	→	ハ	波	→	は
奈	→	ナ	奈	→	な

さきもりに
佐伎毛利尓

ゆくはたがせと
由久波多我世登

とふひとを
刀布比登乎

みるがともしさ
美流我登毛之佐

ものもひもせず
毛乃母比毛世受

防人に行くは誰が背と問ふ人を
見るが羨しさ物思もせず

「万葉集」四四二五番
（防人の歌）

志　カタカナのもともとの働きは、中国の漢字だけの文を日本語で読む時に使ったものなんだ。現在の送り仮名や〃てにをは〃みたいに。

花開キ鳥啼ク

春眠不レ覚レ暁ヲ

未　漢文の読み下しね。

志　それに対して、ひらがなのもとは、漢字の音を使って、日本語を音だけで表そうとしたんだ。

未　万葉仮名というのでしょう。

お　万葉仮名で記された、防人の妻の歌と、ひらがなだけで書かれた、近代の短歌の例をあげてみるわね。

唐招提寺（とうしょうだいじ）にて

おほてらのまろきはしらのつきかげを
つちにふみつつものをこそおもへ

会津（あいづ）　八一（やいち）
（「南京新唱」より）

志

仮名って面白いね。
仮名文字を並べると
また意味が
出て来るみたい。

ひらがなだけで
書いてあっても
意味が分かるものね。

未

でもへんね。
それなら漢字は
いらなくなるんじゃ
ないかしら？

お　それじゃ、漢字の特徴は？

志　読み方が一つではない。

未　読みとは別に、字そのものが意味を持っている。

志　一つの漢字は一つの単語の働きと、二つ以上連なって新しい単語を作る文字としての働きを持っているんだ。

お　熟字というのよ。

志　画の少ない漢字を幾つか組み合わせて新しい漢字が作られる。

土と心で　志

木と毎で　梅

お　そうね、漢字は文字であってしかも単語でもあるのね。

生	代
〈音〉セイ、ショウ、ジョウ 〈訓〉いきる、うまれる、はえる なる、おう、き、なま 〈意味〉草木が芽生える様子を表す。 〈例〉一生　生い立ち　生一本	〈音〉ダイ、タイ 〈訓〉かわる、よ、しろ 〈意味〉人が互い違いに入れかわる様子を表す。 〈例〉交代　二代目　身代金

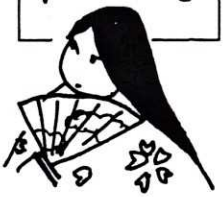
お　それじゃさっきの、仮名を幾つか並べると、意味が出てくるっていうのは、どうして？

志　うーん、どうしてかな？

未　国語辞典を引くと、仮名だけで意味を表す単語って、すごく少ないよ。特にひらがなだけの名詞なんてほとんどないものね。

志　えっ？　そうか、つまり、仮名で書かれていて意味が分かるっていうのは、その語にどういう漢字が当てられるか読む人が知っているからなんだ。知らなかったらやっぱり分からない！

いろはにほへと
ちりぬるを
色は匂へど
散りぬるを



仮名にない画

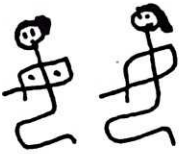
お　この前は、カタカナで画の勉強をしたわね。さて、漢字にあってカタカナにない画は？

未　四つあるわ。

くの字

女　母

お　くの字は、この二つね。



未　女の人の丸みのある身体の線を表しているんだって。

つり針

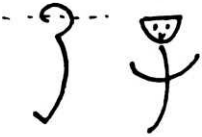
礼のつくり
心　元・見のひとあし

志　右側に大きく曲がるんだ

手かぎ

子
了の下の部分

未　子は、赤ちゃんの体と足、了は、ものがぶら下がった形なのよ。

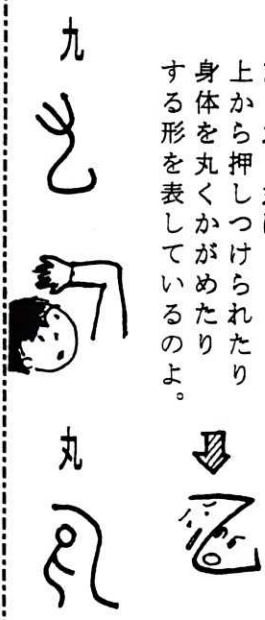


あひる

乙　九　丸
凡　風　気

未　数字の2を逆さにしたような形ね。

乙、九、丸は、上から押しつけられたり身体を丸くかがめたりする形を表しているのよ。



未　凡、風、気は、逆に広々した意味を表すのね。

帆を張った形　風　凡＋虫

息が出る形　気　气＋米（氣）

志　この四つの画は、前の六つの画と違って、もとの形が強く残っているんだね。

お　どう？　画がわかると漢字もわかってくるでしょう。

志　線や点の位置と長さが、頭の中に浮かんでくる。

お　次回からは、漢点字を最初から勉強しましょうね。

未　漢字と関係付けながら！

作・岡田　絵・吉田

点字から識字までの距離（一七）

山内　薫　（墨田区立緑図書館）

前回、私たちが漢字の熟語を読む場合に必ずしも文字の順番に一方向で読んでいるのではなく、ひとかたまりのものとして認知しているような気がすると書いたが、そのかたまりとはどのくらいのものなのか、つまり私たちの視野は文章を読むときに一度にどのくらいの文字数を拾って読んでいるのかということを考えてみたい。この問題は以前述べた拡大写本の読みやすさを考える際にも重要な問題で、視野の狭い弱視者にとっては視力が低いからといって字を大きくしてしまうと視野の中に入る文字数が少なくなって、かえって読みにくくなるという問題とも共通している。

そこで再び『読み』（芋坂直行編　朝倉書店）という本の一論文を援用させて頂く。（「スクロール表示と読みの情報処理」中條和光）

スクロール表示とは、電光ニュースや電車の中の案内表示のように一行分の表示領域を電飾文字が右から左へ、あるいは下から上へと流れるように表示される形態で、一度に表示できる文字の数や文字の移動速度などが読みやすさにどのように関係するのかということがこの論文で検討されている。

一行に四〇文字表示できるＣＲＴを用いて行われた海外の研究では、同じ文章をスクロール表示された時の平均読み速度が一分間に九六語であり、印刷物で提示された時の二七八語と比べて三倍の時間が掛かることが分かったという。（これを漢字仮名まじりの日本語の文節数に換算すると一分間に七九・五文節になるという）そういえば何年か前に弱視学級に通う小学生に社会科の教科書をかなり大きな文字で拡大写本したとき、一年経って担任の先生が「今までのテレビ型の拡大読書器で読んでいた教科書の読みのスピードが拡大写本の教科書を使うようになって三～四倍になった」とおっしゃっていたこととこの数値は符合する。

さて、文字の移動速度を被験者が任意に調節できる表示板で一度に表示される文字の数を一文字から三〇

文字まで変化させて行った実験では、当然のことながら一文字表示で読みの速度が最も遅く一～五文字の間では文字の増加に伴って読みの速度が速くなり、五～七文字を越えると速度の増加は見られず一定の値になったという。また漢字仮名まじりの文章と仮名だけの文章を比較してみると、表示文字が一～三文字の間では明らかに漢字優位であるが五文字以上では有意差が無かった。

次に一文字ずつ移動させるのではなく、数文字を単位として移動させるとどうなるかというと、最適な移動単位は七文字前後という結果がでている。この場合にも右から左への移動と下から上への移動では有意差が見いだせなかったという。

以上のような読みの研究の中で、眼球運動に連動する移動窓を用いた実験では縦書きの文章の読みの有効視野が五～六文字であるとしている。こうした結果から見て視野の中に五～七個の文字が入れば読むことにそれほど支障をきたさないわけで、視野の狭い弱視の人の場合にもその数が読みやすさの目安になるのではないかと思われる。

ところで、表示文字が一～三と少ないときに仮名表記よりも漢字仮名まじり表記の読みの速度が速くなっている理由について、「日本語文では文字種の書き分けによって『語』や『文節』という情報が表示されており、それを利用すると、一文字一文字を照合せずに漢字表記された部分を一つの塊として照合処理するなどの解析の方略をとることができ、読みの処理が効率化するという仮説」が立てられ、それを検証するために次のような実験を行っている。

漢字仮名まじり文をすべて仮名に書き改めた読み材料と同じ材料の仮名だった部分だけ文字の色を変えた材料で最適速度を測定してみると、仮名だけの材料では一文字、二文字、三文字と文字が増えるに従って読みの速度が速くなっているが、色分けした材料では表示文字が二文字と三文字では読みの速度に差が見られず、表示文字数二文字の場合に読みの促進があったと結論している。そして有効視野に満たない制限視野のもとでは逐次的な形態素処理が行われるという解釈の

妥当性が指示されたとしている。そして最後に「この実験の目的は、極端に制限された視野に一文字ずつ文字が追加されるときの読みが、一文字ずつを逐次的に処理していく過程であることを実証するという特殊なものであった。しかし、そのような特殊な事態を設定することで、日本語文章の読みにおいて、漢字と仮名の書き分けによって表示される情報が形態素の同定に利用されるということも見出している。この知見は、通常の読みに関する研究にも還元できるものであると考えられる。」と述べている。

視力や視野に大きな制限がある弱視者の場合や触読による一次元情報として点字を読む人にとっての読みとは、いま見てきたような一文字か二文字しか表示されないという制限された状況の中での読みと同等の問題を含んでいるのではないだろうか。その意味でも「漢字」というものが一層重要な役割を果たすと言えるのではないだろうか。

新会員対象の講座を開催します。

本会では、この三月五日（日）から四週に渡って毎日曜日に、コンピュータによる漢点学訳のボランティア講座を開催します。

講習が終了しますと、新会員として活動にご参加いただきますので、今後の活動にも厚みが加わります。

講習の内容は、5日（一日目）、①本会の成り立ちと活動の概要、②日本語の点字と漢点学のご紹介、③コンピュータによる漢点学訳書製作の工程、④漢点学変換ソフトEIBRKによる変換の概要。

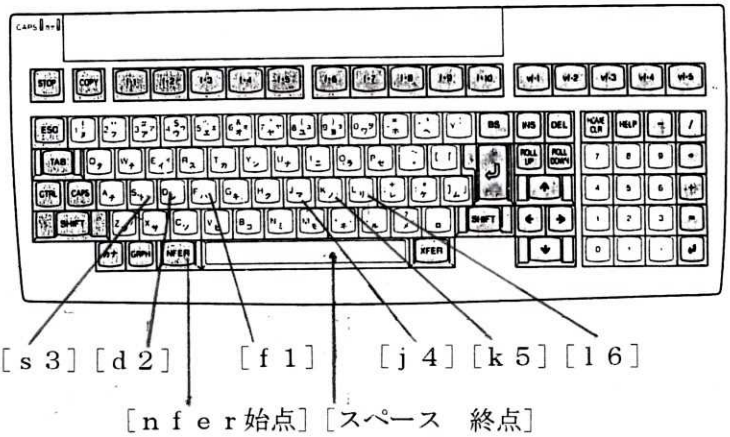
12日、19日（二日目、三日目）、入力の実際。入力時における注意事項。

26日（四日目）、①三人で行なう校正の実際。②テキストデータの漢点学データへの変換の実際。　以上です。

昨年十二月に講習生を募集致しましたところ、多数の皆様からのご応募がございました。そこで、急遽定員を増員し、また二回目の講習会を計画することになりました。

読者からのニーズにより迅速にお応えできるよう努力して参ります。

キーボードを使って点字入力する時のキーの配列です。



（5）文字入力モードの入力＿　漢字の入力は、コントロールキー＋xfer キーで変換モードにして行って下さい。読みからの検索は、半角かなモードで行って下さい。

（6）検索文字のキャンセル＿　点字入力の場合、c とデリートキーでキャンセル、a とバックスペースキーで後ろ一文字削除。文字入力の場合、カーソル移動で操作できます。

（7）　検索の実際＿　メニュー画面から１　でかなから漢字を、２で漢字から読みを検索できるモードが選べます。

検索の実行後、リターンキー、スペースキー、下向き矢印キー、n の何れかを押すことで先へ進み、上向き矢印キー、テンキーのプラス、y の何れかを押すことで反対に進みます。

次の検索に移る時は、左向き矢印キー、テンキーの＝、h の何れかを押して入力画面に戻します。

メニュー画面に戻る時は、もう一度左向き矢印キー、＝、h の何れかを押します。

（8）検索結果の表示＿　画面と点字ディスプレイに表示します。画面には、検索文字と、検索結果の文字、そしてそれらの漢点字が点符号で表示されます。点字ディスプレイにも同様に表示されます。その表示が１行の幅を超えた場合、右向き矢印キーを押して下さい。検索文字が消えて、検索結果のみの表示となります。

＊＝、左向き矢印キー、h で、次の検索モードに戻ります。もう一度同じキーを押すと、冒頭のメニュー画面に戻ります。

ESC（エスケープキー）で終了。　　以上

れる場合は、ファイル内の“yomanai”と“vdctrl”の行を削除して下さい。

CB　リターン

でオープン、以下のメニュー画面が出てきます。

＊外字を読み込むために、立ち上げに数秒の時間がかかります。

（vdm 音声ソフトの詳細読みがオンになっていますので、半角カタカナの画面表示にしました。）

EIBRDIC　(ﾆｭｳﾘｮｸﾊ ﾃﾝｼﾞ , ｷｼｭﾊ 46C)　ｶﾞｲｼﾞﾄｳﾛｸｽｳ: ??

1　ﾖﾐ→ｶﾝﾃﾝｼﾞ ｹﾝｻｸ

2　ｶﾝﾃﾝｼﾞ→ﾖﾐ ｹﾝｻｸ

f.5　ﾆｭｳﾘｮｸ ｷﾘｶｴ

f.6　ｷｼｭ ｷﾘｶｴ

ˆG　ﾄｳﾛｸｶﾞｲｼﾞｽｳ ﾋｮｳｼﾞ

ESC　ｼｭｳﾘｮｳ

ﾄｳﾛｸｺﾞｽｳ: ??????

ｶｲﾃｲﾋﾂﾞｹ: ????:??:??

３．操作＿　このプログラムは、漢字の熟語の読みを調べるものです。漢字から読みを調べることと、読みから漢字を調べることができます。

（１）エスケープキーを押すと終了＿　検索が終わったり、操作途中でうまく動かず困ったりした時には、ＥＳＣ（エスケープキー）を押すと終了できます。

（２）点字ディスプレイにも対応＿　ＫＧＳ製、ブレイルノート４０Ａと４６Ｃ、Ｄに対応しています。機種の切り替えは、ファンクション６を使います。４０Ａ、４６Ｃが交互に選択できます。４６Ｄは、Ｃと仕様が同一ですので、４６Ｃを選んで下さい。

（３）点字入力と文字入力＿　ファンクション５を押すことで、点字入力と文字入力を交互に選択できます。

（４）点字入力モードのキー配列＿　英数モードにして下さい。

f=１の点　d=２の点　s=３の点　j=４の点　k=５の点

l=６の点　nfer=始点　ｽﾍﾟｰｽ=終点

読みからの検索のかな入力もこのキー配列です。

このプログラムは、ＮＥＣ製ＰＣ９８シリーズのＭＳ－ＤＯＳにのみ対応しています。ご注意下さい。
熟語の読みがお分かりになりましたら、お手持ちの国語辞典などで、その意味をお調べ下さい。

使用コンピュータ＿ＮＥＣ９８シリーズ
ＯＳ＿ＮＥＣ、ＭＳ－ＤＯＳ
使用ピンディスプレイ＿ＫＧＳ,ブレイルノート４０Ａ,４６Ｃ,４６Ｄ

＊本プログラム並びにデータの著作権は、横浜漢点字羽化の会に帰属します。
＊本プログラム並びにデータの無断複製、流用、転用、改竄は、固くお断りします。
＊〝ＥＩＢＲＤＩＣ〟は、本会の開発したソフトの名称です。〝ＥＩＢＲ〟は、『漢点字変換プログラム』の意です。また、ファイル名に使用されている〝ＣＣＢ〟は、“CHINESE CHARACTER of the BRAILLE”（漢点字）の略です。

１９９９年１０月１５日
横浜漢点字羽化の会

なお本プログラムには、ご使用のハードディスクに、２０メガバイト程度の空き容量が必要です。

操作の手順

１．ディレクトリ CCB に全て格納＿ CCB というディレクトリができています。その中に全てのプログラムとデータが入っています。
２．CB.BAT を使ってオープン＿ カレント・ディレクトリに「CB.BAT」というバッチファイルができています。それをそのまま使うか、適当なディレクトリにコピーして使って下さい。
このバッチファイルは、視覚障害者の便宜をはかって、VDM という音声ソフトのコマンド VDCTRL を使って、音声エコーをオフ、漢字の詳細読みをオンにしてあります。VDM 以外の音声ソフトをお使いの方は、それに合ったコマンドに書き換えて下さい。また、晴眼者の皆さまが使わ

ＥＩＢＲＤＩＣ

の配布が始まりました！！

ちょうど一年前にご紹介しましたＥＩＢＲＤＩＣ（漢点字熟語読み方電子辞典）が、やっと完成しました。

読書や学習をする時、必須の資料である辞書、特に漢和辞典などの漢字に関する辞書は、視覚障害者には手の届かないものでした。そこで本会ではこのＥＩＢＲＤＩＣを開発して、そういう皆さまのお役に立ちたいと考えました。

本プログラムは、漢点字入力あるいはＦＥＰによる変換で漢字の熟語を入力しますと、その読みを即座に検索して画面とピンディスプレイに表示するものです。

残念ながら意味や用例などの国語辞典としての機能や、漢字の構造や原字の説明などの漢和辞典としての機能はありませんが、難読語などの読みを調べて、お手持ちの国語辞典などで詳細をお調べいただければ、このプログラムの目的は達せられるものと思います。視覚障害者ばかりでなく、かな点訳や音訳のボランティアの方にも十分お役に立てていただけるものと信じます。

以下は添付のマニュアルからの抜粋です。

=== ＥＩＢＲＤＩＣ(ｴｲﾌﾞﾙﾃﾞｨｸ) ===

漢点字熟語読み方電子辞典

Copyright (c) 1999/10/15 横浜漢点字羽化の会

このプログラムは、横浜漢点字羽化の会が製作した、漢字の熟語の読みを調べるための電子辞典です。

去年今年（こぞことし）貫ぬく棒のごときもの

高浜虚子

年頭に当たって新年の句を一つ。浜虚子云わずと知れた俳句界の大御去年、今年と、暦の上では別の年とされているが、よく考えてみると、自分の生活も、他の人の生活も、また歴史も文化も、すべて一時も切れることなく、昨日につづく今日という日が存在している。去年今年を貫いて、一本の太い棒のようなものを厳然と感じる。その棒のようなものとは神の意志だ。　（去年今年；新年の季語）　（朔）

友垣や口八丁の鍋奉行

小倉朔太郎

いよいよ鍋物の季節ですね。家族団らんに限らず、特に親しい友達が相寄っての、鍋をつつき合いながら酌み交わす和やかさはこれをおいてほかに無い。しかし好き勝手を許して は、せっかくの雰囲気をだいなしにしてしまう。そこで 鍋奉行の存在が意味をもってくる。登場した鍋奉行は、口は八丁というから器用な人であろう。お互いに気心の知れた仲。鍋奉行在。例えれば社会の潤滑油である。

編集後記

梅が満開になりました。小田原をとおって伊豆長岡に行き、途中に咲いている花をながめながら、帰ってきました。

創刊号からずっと編集をされ、今の形を作られた宗助さんが体調を悪くされ、しばらくお休みされますので、今回から「うか」の編集を宗助さんが復帰されるまでお引き受けしました。はやくよくなられ、復帰されますようお祈りいたします。

羽化の会には初めの講習から参加しておりましたのに、朝日俳壇、歌壇のお手伝いをちょっとしているのみで、ほとんど働いておりませんでした。今回編集をするためには木下さんにいろいろ教えていただきました。

また表紙の絵は画家の田谷そよさんがご協力くださいました。なんとか発行できますことを喜んでおります。

二月十五日　　平野桃子

＊本誌（活字版・テープ版・ディスク版）の無断転載はかたくお断り致します。

連載　漢点字変換ソフトEIBRKについて(2)

木下　和久

先号では漢点字変換ソフト EIBRK のインストールについて述べました。今回から二三回にわたって、主としてこのソフトでどのようなことができるかについて説明します。

1．EIBRKの立ち上げ

(1) 標準的な方法

標準的な方法でインストールされた EIBRK は、どのディレクトリがカレントであっても「ＥＢﾘﾀｰﾝ」で立ち上がるようになっています。これは、A:ドライブのルートディレクトリに EB.BAT というバッチファイルが作ってあるからです。このバッチファイルは、EIBRK システムが入っているディレクトリ(例えば¥TENJ)をカレントにしてから EIBRK.EXE を起動するようにしてあります。このディレクトリにはシステムに必要なすべてのファイルが入っているので、ほかのディレクトリから EIBRK.EXE を起動するとうまく動かないので、必ず標準的な方法で起動するようにして下さい。

起動直後の画面では、読み込むファイルを選択するようになっています。ここではファンクションキーの f.1 に指定されたパスの、拡張子が.TXT のファイルを表示します(拡張子の.TXT は表示しません)。つまり、このソフトが対象とするのは拡張子が.TXT というテキストファイルだけなのです。選択されたファイル名が反転表示されますので、矢印で目的とするファイルを選択し、リターンキーを押します。目的とするファイルが f.2 または f.3 キーで示されるパスに入っている場合は、それぞれのファンクションキーを押します(これらのファンクションキーにパス名を割り付ける方法については後で説明します)。これ

らのいずれにもないパスを臨時に指定したいときは、f.6 を押して一時的にパス(ドライブ)を変更するか、f.9 を押してオプションの選択により、f.1〜f.3 キーで
選択するパスを指定し直します。

（2）起動時にファイル名指定

EIBRK.EXE は、ファイル名をパラメータとして指定すると、ファイル選択の画面を省略して、直接目標のファイルを読み込んで作業にはいることができます。このファイル名は、パス名(ドライブ、サブディレクトリ名)をつけると、その指定されたパスのファイルを読み込みますが、パス名を省略してファイル名だけにすると、後述するオプション選択の f.1 キーで指定するパスのファイルが読み込まれます。あるファイルについての使用頻度が高い場合など、ファイル名まで含んだバッチファイルを作って簡単な名前を付けておくと便利でしょう。

以上いずれの方法でファイルを選択しても、そのファイルがすでに漢点字に変換されたものであれば、変換されたファイルが表示され、そうでない場合は「未変換です。変換しますか(Y/N)？」という表示が出て入力を促します。ここで N(または n)を押すともとのファイル選択画面に戻りますが、それ以外のキーを押すと変換が始まります。

（3）表示モード

EIBRK には、画面表示の仕方にＢとＳの２通りのモードがあります。オプション選択で「点字ディスプレイを使用する(１か２)」が選択されていると、画面はＢモードで立ち上がります。この画面は視覚障害者向けのもので、画面には 1 行分の点字とそれに対応するテキスト文が表示されます。このテキスト文には以下に述べるような位置調節用の余分な記号が入っていないので、音声装置で読みやすく点字ディスプ

レイの表示も見やすくなっています。

点字ディスプレイを使用しない(0)場合は、画面はSモードで立ち上がります。これは晴眼者向けで、画面には 10 行分の点字とそれに対応するテキスト文が表示されます。この場合の点字に対するテキスト文は点字の位置と1：1で対応するように、位置調節用の半角で青色の*マークつきの符号が挿入されています。点字ディスプレイが接続されている場合には、このSモードでも点字データがディスプレイに表示されるようにしてあります。

これらの表示モードは、常時 f.2 キーで相互に切り替えることができます。いずれの表示モードでも、画面の右上に「外字数」または「ｶﾞｲｼﾞﾄｳﾛｸｽｳ」として数字が表示されます。これは JIS コードにない漢字で、EIBRK の外字ファイル(TBGAIJ.FNT)に登録されている外字の数で、現在のところ経穴に多く使われている 38 個の外字が登録されています。ここに登録された外字を利用するためには EIBRK のシステムフロッピーに入っているｹｲｹﾂ7.TXT またはｹｲｹﾂ8.TXT(前者はバージョン4[ATOK7]用、後者はバージョン5[ATOK8]用)というファイルを一太郎の辞書に登録すると、その読みで単語を使うことができます。そして、一太郎で表示できると同時に、EIBRK(MS-DOS 版)の画面でも表示することができます。

EIBRK で利用できる種々の機能の大部分は、ファンクションキーと変換画面から ESC キーで表示されるメニューで、また一部の機能は直接キー入力によって選択実行されます。次項ではまず最初に現れるファイル選択画面でのファンクションキーの使い方について説明します。

2．ファイル選択画面のファンクションキー

この画面で選択できるファンクションキーは、f.1～f.3 の他に f.5(ソート順)、f.7(ワイルドカード)、f.9(オプション)、と f.10(終了)があります。f.5 のソート順は、表示されるファイル名が時間順か名前順か

を選択するものです。通常は時間順で、最も新しいものが最初に表示されます。f.5 を1回押すたびに、時間順と名前順が交互に切り替わります。

f.7 のワイルドカードの指定は、一般に MS-DOS でファイル名を指定するときのルールに従ってファイル名を指定するもので、例えば「R*」と入力すれば最初の1文字が R という名前のファイルのみのリストが表示されます。この場合、「.TXT」という拡張子はつけないで下さい。

f.9 のオプションの指定については、以下に各項目について説明します。

・入出力パス(1～3)：上に説明したように f.1～f.3 キーで選択するパスを指定します。

・バックアップパス：後で説明する変換ファイルの表示画面で f.10 キーを押して内容をバックアップするときのファイルが収容されるパス名を指定します。例えば、常時変換・校正作業をするパスを A:¥DOC とし、フロッピーディスクドライブを C: として、バックアップパスを C: にしておけば、作業結果を簡単にフロッピーディスクに保存することができます。

・プリンタ機種：かっこ内に書かれた6種のプリンタを数字で選択することができます。これらのプリンタは、機種により1行文字数が決まっているので、次に表示される1行文字数は自動的に表示されます。

・巻　No.：ここで1以上の数字を指定すると、それが印刷時ページ番号の前に自動的に付加されます。そのような数字が不要の時は、0を指定します。

(以下次号)